

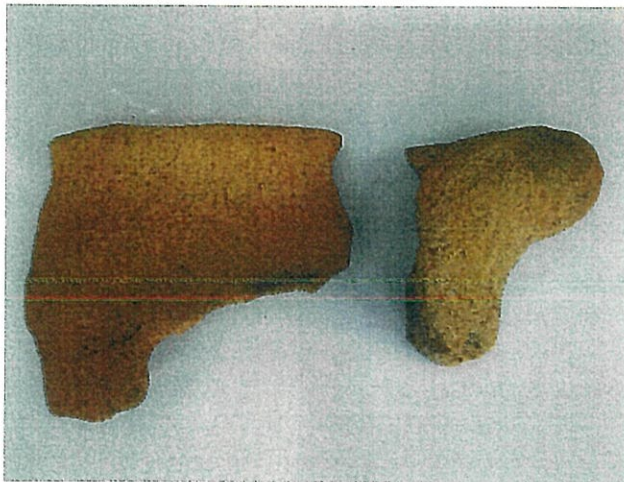
平成28年10月15日(土) 10:00～
島根県埋蔵文化財調査センター



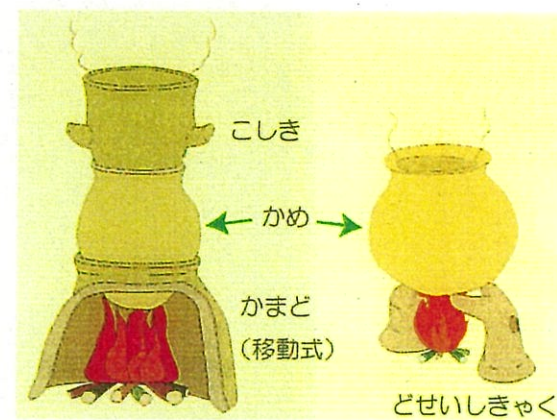
左：須恵器坏 右：須恵器蓋



赤彩土師器皿



左：土師器 右：土製支脚



古代出雲の台所セット

1. はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省・西日本高速道路株式会社から委託を受け、一般国道9号(出雲湖陵道路)改築工事に伴う浅柄Ⅲ遺跡(出雲市知井宮町浅柄)の発掘調査を実施しています。

浅柄Ⅲ遺跡は、出雲平野の南麓に位置する、古代の中心とする集落跡です。丘陵裾の標高約10mに立地し、昨年度及び今年度の試掘調査を受け、今年度約1,560㎡の発掘調査を7月末から始めました。

周辺には、^{ねんどかく}粘土柳や^{れきかく}礫柳を持つ前期古墳である浅柄Ⅱ遺跡や古墳時代前期の^{どきかん}土器棺や^{よこあなほ}横穴墓が出土した浅柄北古墳、古墳時代から鎌倉時代の集落が検出された九景川遺跡などがあります。

2. 調査の成果

丘陵斜面を平坦に造成し、建物を建てていました。
建物等の時期は出土した土器から7世紀後半から8世紀初めと考えられます。

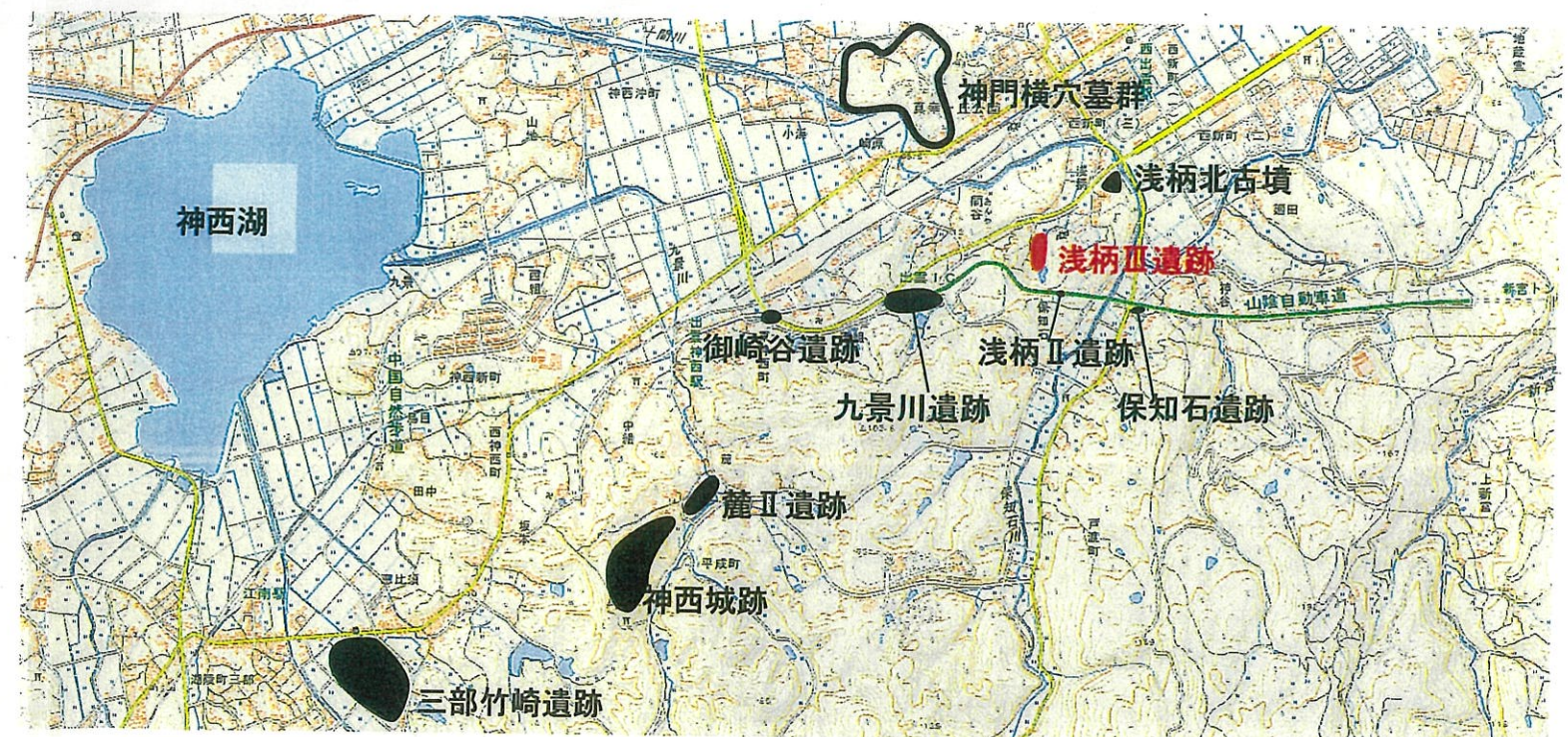
当時の生活の様子を知ることができる須恵器の蓋坏・壺・高坏、土師器の煮炊き具(甕・甑)・土製支脚・竈や、砥石が出土しました。

3. まとめ

浅柄Ⅲ遺跡では、小さな谷あいにも短期間の集落が営まれていました。
家を建てたり、作業場とするため、斜面を削り平坦面を造成していました。古墳時代後期から奈良時代(約1,300～1,400年前)の暮らしや集落の様子を考えるうえで貴重な成果を得ることができました。

時代	年代	主な出来事	周辺の遺跡	
旧石器時代				
縄文時代	草創期	16,000年前	土器や弓矢が使用される	
	早期	12,000年前		
	前期	7,000年前	気候が温暖化し、海水面が上昇する	
	中期	5,500年前		
	後期	4,500年前	三瓶山が噴火する	麓Ⅱ遺跡
弥生時代	前期	2,500年前	稲作が伝わる	保知石遺跡
	中期	2,100年前		三部竹崎遺跡
	後期	1,800年前	墳丘墓が造られる	
古墳時代	前期	1,700年前	古墳が造られる	浅柄Ⅱ遺跡
	中期	1,600年前		浅柄北古墳
	後期	1,500年前	横穴式石室が造られる	九景川遺跡 御崎谷遺跡 神門横穴墓群
飛鳥時代	1,400年前	大化の改新(645年)	浅柄Ⅲ遺跡	
奈良時代	1,300年前	平城京遷都(710年)		
平安時代	1,200年前	平安京遷都(794年)		
鎌倉時代	800年前	源頼朝が鎌倉幕府を開く(1192年)		
室町時代	600年前	足利尊氏が室町幕府を開く(1336年)		
戦国時代	500年前	応仁文明の乱(1467年)	神西城跡	
		石見銀山が再開発(1526年 銀山旧記)		
江戸時代	400年前	徳川家康が江戸幕府を開く(1603年)		

年表

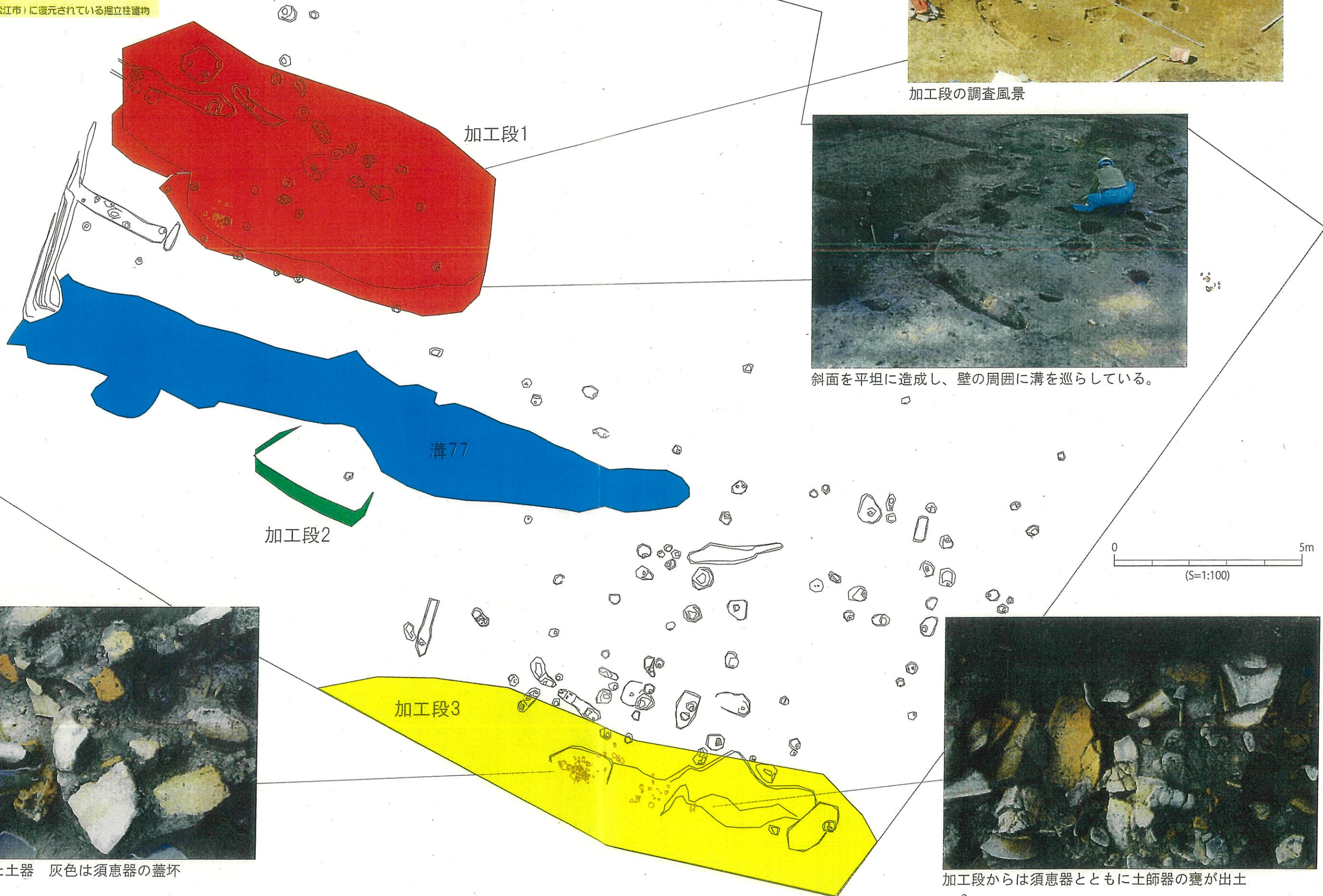


浅柄Ⅲ遺跡周辺の遺跡

浅柄Ⅲ遺跡 遺構配置図



加工段の調査風景



斜面を平坦に造成し、壁の周囲に溝を巡らしている。



加工段から出土した土器 灰色は須恵器の蓋坏



加工段からは須恵器とともに土師器の甕が出土